



科目を超えて

とりあえず面談が終わり、受験計画表も提出してもらった。面談の際、結論をペンディングして再考することにした人は、現時点での一応の結論で構わないから、今週中には受験計画表を提出すること。

なお、例えば、後期の出願先については、センター試験の結果が重視される大学もあれば、二次試験重視の大学もあるので、センター試験の結果次第ということで、含みを残している人もたくさんいる。だから、まだ完全に受験計画が完成したという人は多くはないので、自分だけ遅れているのでは…と不安に思う必要はない。ただ、そうはいつでも最低限の準備をしておくことは大切だから、例えば後期に出願の可能性のある大学については、前もって書類だけでも手元に用意しておくことよいだろう。また、それが地方大学であるなら、宿泊先や交通機関の確保も大切になる。一ヶ月前までのキャンセルなら料金がかからない場合もあるから、保護者の方や旅行社と相談して、必要な部分を早めに確保しておくことも必要だろう。

受験計画表を提出した後でも、まだ迷っている部分がある人がいるかも知れない。この時期、放課後は会議があったり、考査の準備をしなければならなかったりで忙しくなるが、昼休みなら時間がとれるので、もし何か気がかりなことがあったら遠慮せずに顔を出してほしい。ただ、面談の時にも話したが、悩む時間があつたら、少しでも理・社の実力向上に努めた方が結果としてはベターな方向にいくはずだから、ここは「エイヤッ！」と結論を出して、あとは第一志望突破を目指してダッシュしてほしい。

そのダッシュにおいて、今回の考査準備などが足かせに感じられるかも知れないが、日比谷の教養主義を馬鹿にしてはいけなくて、考査準備をすることが、何かの時に役立つかも知れないのだから、この一週間は受験準備とうまくバランスをとりながら、日比谷での最後の考査に向けて、しっかり準備をすすめてほしいものである。

何度も書いているように、知識というのは単発では単にクイズの答えを知っているのと変わらないのだが、それが互いに結びつき合うことによって、より深い理解やより広い視野へと発展していくのである。そして、君たちが受けるレベルの大学では、そのような広がりのある知識が求められているのである。先生方も、そのことを十分にご存じだし、さらに昨今の入試の現状もご存じだから、それを意識して考査問題の作問をしておられるわけで、どこに来年の入試のカギが隠れているとも限らないのである。

今回の現代文では、教科書の考査範囲の教材が、現在の社会状況を如実に反映した評論であることは明かだろう。だから、基本的な読解問題と同時に、応用的な出題として、社会との関連性を問う問題も出題されている。考査に向けて自分の準備した部分を解き終えたからといって居眠りしたりなどせず、時間の許す限り、そういう応用的な問題に対しても、最善の解答を目指して頭を働かせ、知識を結びつけて発展させてほしい。というのも、実はそういう態度が、現代文という科目、考査という制度を超えて、受験の準備そのものとなってゆくからである。